

日本老年医学会雑誌 2004 ; 41(2) :
206-212.

三浦宏子, 荻安誠, 山崎きよ子, 荒井由美子. 虚弱老人における摂食・嚥下障害に関するケアアセスメント. 日本老年医学会雑誌 2004 ; 41(2) : (印刷中)

2. 著書

荒井由美子. 精神障害の現状と動向. 鈴木庄亮・久道茂, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2003. 東京 : 南江堂, 2003: 295-305.

荒井由美子. 介護負担—現状と対策—. 柳澤信夫, 編. 老年期痴呆の克服をめざして. 東京 : 長寿科学振興財団, 2003: 239-299.

荒井由美子. 介護保険がはじまって介護負担はどう変わったか. 柳澤信夫, 編. 健やかに老いるために2002. 東京 : 長寿科学振興財団, 2003: 50-51.

荒井由美子, 熊本圭吾. 高齢者リハビリテーションと介護. 武田雅俊, 編. 老年精神医学の専門医のために. 東京 : ワールドプランニング, 2004: 印刷中

荒井由美子. 在宅介護者の抱える諸問題. 上島国利, 他, 編. 精神障害の臨床. 東京 : 日本医師会. 2004 : 印刷中

荒井由美子. Zarit 介護負担度日本語版 : J-ZBI. 福地義之助, 編. MOOK・

高齢者ケアマニュアル. 2004 : 印刷中

荒井由美子. 精神障害の現状と動向. 鈴木庄亮・久道茂, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2004. 東京 : 南江堂, 2004: 293-303.

3. 学会発表

Arai Y. Assessment of family caregiver burden in the context of the LTC insurance system: J-ZBI. Geriatric Assessment (Symposist). The 7th Asia/Oceania regional congress of gerontology. 2003 November 25, Tokyo, Japan. (Invited).

荒井由美子, 田宮菜奈子, 矢野栄二. Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版 (J-ZBI-8)の作成 : その信頼性と妥当性に関する検討. 第 45 回日本老年医学会, 2003年6月18-20日(発表18日), 名古屋.

熊本圭吾, 荒井由美子, 上田照子, 鷺尾昌一, 三浦宏子, 工藤 啓. 日本語版 Zarit 介護負担尺度短縮版(J-ZBI-8)の交差妥当性の検討. 第 45 回日本老年医学会, 2003年6月18-20日(発表18日),名古屋.

熊本圭吾, 荒井由美子, 橋本直季, 水野裕. 前頭側頭葉変性症患者の在宅介護における問題点-家族介護者の視点から-. 第 18 回日本老年精神医学会, 2003年6月18-20日(発表19日),名古屋.

上田照子, 荒井由美子. 要介護高齢者を介護する家族の介護意識とサービス利用との関連-縦断研究より-. 第45回日本老年社会科学会, 2003年6月18-20日(発表20日), 名古屋.

三浦宏子, 山崎きよ子, 荻安誠, 荒井由美子, 角保徳. 高齢者の咬合力変化と全身の健康状態との関連性-縦断調査による疫学的解析-. 第14回日本老年歯科医学会学術大会, 2003年6月18-20日(発表20日), 名古屋.

工藤 啓, 右田周平, 荒井由美子. 住民参加型健康日本 21 市町村計画策定方法の新しい試み. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003年10月22-24日(発表22日), 京都.

熊本圭吾, 荒井由美子, 工藤 啓, 三浦宏子, 上田照子, 鷺尾昌一. 日本語版 Zarit 介護負担尺度短縮版(J-ZBI-8) 下位尺度の検討. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003年10月22-24日(発表23日), 京都.

上田照子, 荒井由美子, 西山利政. 在宅

要介護高齢者の施設入所と家族の介護意識について-縦断調査から-. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003年10月22-24日(発表23日), 京都.

和泉比佐子, 鷺尾昌一, 森 満, 荒井由美子. 介護保険利用者の家族の介護負担感とその関連要因. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003年10月22-24日(発表23日), 京都.

三浦宏子, 山崎きよ子, 荒井由美子. 虚弱老人における摂食・嚥下障害のリスク評価. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003年10月22-24日(発表23日), 京都.

荒井由美子. 高齢者に対する家族介護者の介護負担に関する疫学的研究, 第14回日本疫学会学術総会 日本疫学会奨励賞受賞講演, 2004年1月22日~23日, 山形県山形市.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得、2. 実用新案登録、
3. その他、特記すべきことなし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
池田 学	周辺症状と痴呆の行動心理学的問題		別冊日本臨床痴呆症学(1)	日本臨床社	大阪	2003	109-113
繁信和恵, 池田 学	介護保険主治医意見書	「臨床精神医学」編集委員会	臨床精神医学増刊号 精神科診療に必要な書式マニュアル	アークメディア	東京	2003	133-141
銚石和彦, 池田 学, 田辺敬貴	痴呆の症候学的分類	柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田 誠, 清水輝夫, 寺本 明	Annual Review 神経 2003	中外医学社	東京	2003	59-66
木村 格, 池田 学		田辺敬貴, 西村道子, 立花直子 監修	高齢者の睡眠-より良い睡眠のために-	愛媛大学医学部神経精神医学教室	愛媛	2003	1-15
繁信和恵, 池田 学	介護保険主治医意見書		臨床精神医学増刊号 精神科診療に必要な書式マニュアル	アークメディア	東京	2003	133-141
博野信次	Neuropsychiatric Inventory (NPI)		別冊日本臨床痴呆症学(1)	日本臨床社	大阪	2003	154-158
豊田泰孝, 銚石和彦, 池田 学, 田辺敬貴	Pick complex		別冊日本臨床痴呆症学(2)	日本臨床社	大阪	2004	175-178
河野保子, 首藤 貴, 藤目節夫, 杉山充宏, 池田 学, 陶山啓子, 得丸敬三		高齢者の交通事故防止調査研究会	高齢者の交通事故防止調査研究報告書	社団法人愛媛県交通安全協会	愛媛		印刷中
荒井由美子	精神障害の現状と動向.	鈴木庄亮, 久道茂	シンプル衛生公衆衛生学 2003	南江堂	東京	2003	295-305
荒井由美子	介護負担-現状と対策-	柳澤信夫	老年期痴呆の克服をめざして	長寿科学振興財団	東京	2003	239-299
荒井由美子	介護保険がはじまって介護負担はどう変わったか	柳澤信夫	健やかに老いるために2002	長寿科学振興財団	東京	2003	50-51
荒井由美子, 熊本圭吾	高齢者リハビリテーションと介護	武田雅俊	老年精神医学の専門医のために	ワールドプランニング	東京	2004	印刷中
荒井由美子	在宅介護者の抱える諸問題	上島国利	精神障害の臨床	日本医師会	東京	2004	印刷中
荒井由美子	Zarit介護負担度 日本語版: J-ZBI	福地義之助	MOOK・高齢者ケアマニュアル			2004	印刷中

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
池田 学	巻頭言 痴呆高齢者と自動車運転	老年精神医学雑誌	14	404-405	2003
二宮由実, 池田 学, 頼田綾子, 小森憲治郎, 田辺敬貴	老年期における心理社会的要因への対応	精神科治療学	18	551-556	2003
池田 学	地域における痴呆の早期発見の意義と対応の考え方	老年精神医学雑誌	14	9-12	2003
長戸登世, 池田 学, 田辺敬貴	非Alzheimer型変性痴呆	精神科	2	123-129	2003
池田 学, 田辺敬貴	講座：老年精神医学の専門医のために-17 前頭側頭型痴呆	老年精神医学雑誌	14	905-915	2003
渡辺恭子, 西川志保, 繁信和恵, 塩田一雄, 松井 博, 池田 学	痴呆症に対する音楽療法の効果についての検討	精神医学	45	49-54	2003
池田 学	前頭側頭型痴呆の臨床症状と現在の治療・ケア	老年精神医学雑誌	14	9-12	2003
池田 学, 繁信和恵	Mild cognitive impairment (MCI) の地域における有病率-中山町研究を中心に-	精神神経学雑誌	105	381-386	2003
池田 学	地域における痴呆の早期発見の意義と対応の考え方	老年精神医学雑誌	14 (増刊号)	45-53	2003
鎌石和彦, 池田 学, 牧 徳彦, 根布昭彦, 山内寿恵, 田辺敬貴	緩徐に進行し, 奇妙な幻覚妄想をともなった初老期変性性痴呆の一例	精神医学	45	509-514	2003
繁信和恵, 池田 学	痴呆性疾患別ケア	老年精神医学雑誌	14	1101-1108	2003
小森憲治郎, 池田 学, 中川賀嗣, 田辺敬貴	意味記憶における右側頭葉の役割 -semantic dementiaにおける検討-	高次脳機能研究	23	107-118	2003
小坂直美, 博野信次, 東陽次郎, 森 悦朗	中年期の食習慣とアルツハイマー病の発症との関連の検討	臨床栄養	102	53-58	2003
上村直人, 掛田恭子, 井上新平	向精神薬 「高齢者と薬」	JIM	113	932-937	2003
兵頭隆幸, 池田 学, 小森憲治郎, 田辺敬貴	視覚性半側空間無視の簡易なベッドサイドの検査	精神科治療学	19	53-58	2004
荒井由美子, 熊本圭吾	高齢者リハビリテーションと介護.	老年精神医学雑誌	14(3)	367-375	2003
荒井由美子	介護負担についての調査研究の現状	医事新報	4117	112-113	2003
鷲尾昌一, 荒井由美子, 和泉比佐子, 森 満	介護保険制度導入1年後における福岡県遠賀地区の要介護高齢者を介護する家族の介護負担感: Zarit介護負担尺度日本語版による検討	日本老年医学会雑誌	40(2)	147-155	2003
荒井由美子, 田宮菜奈子, 矢野栄二	Zarit介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)の作成: その信頼性と妥当性に関する検討	日本老年医学会雑誌	40(5)	471-477	2003
工藤 啓, 右田周平, 菅沼 靖, 荒井由美子	地域ケアシステム構築の手法について一企画書と計画書の重要性一	公衆衛生	67(6)	449-451	2003

増井香織, 荒井由美子, 鷺尾昌一, 工藤 啓	介護保険制度導入直後の介護負担の変化—要介護度, サービス利用との関連—	保健婦雑誌	59(11)	1060-1065	2003
松鶴甲枝, 鷺尾昌一, 荒井由美子, 湖義亮, 井手三郎	訪問看護サービスを利用している在宅要介護高齢者の主介護者の介護負担—福岡県南部の都市部の調査より—	臨床と研究	80(9)	1687-1690	2003
荒井由美子	Geriatric Assessment	ジェロントロ ジーニューホラ イズン	16(2)	印刷中	2003
荒井由美子	介護負担の評価	日本臨床		印刷中	2004
荒井由美子	Zarit介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)の開発について	Gpnet	50(11)	22-23	2004
荒井由美子, 工藤 啓	Zarit介護負担尺度日本語版(J-ZBI)および短縮版(J-ZBI_8)	公衆衛生	68(2)	125-127	2004
山崎律子, 鷺尾昌一, 荒井由美子, 井手三郎	大都市における訪問看護サービス利用者の公的サービスの利用状況と介護者の負担感—福岡市の一訪問看護ステーションの調査より—	臨床と研究	81(1)	115-119	2004
熊本圭吾, 荒井由美子, 上田照子, 鷺尾昌一	日本語版Zarit介護負担尺度短縮版(J-ZBI_8)の交差妥当性の検討	日本老年医学会 雑誌	41(2)	印刷中	2004
三浦宏子, 苅安誠, 山崎きよ子, 荒井由美子	虚弱老人における摂食・嚥下障害に関するケアアセスメント	日本老年医学会 雑誌	41(2)	印刷中	2004
Ikeda M, Shigenobu K, Fukuhara R, Maki N, Hokoishi K, Nebu A, Nomura M, Komori K, Tanabe H	Delusions of Japanese patients with Alzheimer's disease.	Int J Geriatr Psychiatry	18	527-232	2003
Ikeda M	Prevention and early intervention for vascular dementia in community dwelling elderly: findings from the Nakayama study	PSYCHOGERIAT RICS	3	17-20	2003
Shigenobu K, Ikeda M, Fukuhara R, Komori K, Tanabe H	A Structured open trial of risperidone therapy for delusions of theft in Alzheimer disease	American Journal of Geriatric Psychiatry	11	527-532	2003
Nestor PJ, Fryer TD, Ikeda M, Hodges JR	Retrosplenial cortex - BA 29/30 - hypometabolism in mild cognitive impairment (prodromal Alzheimer's disease)	The European Journal of Neuroscience	18	1-5	2003
Nagao M, Sugawara Y, Ikeda M, Fukuhara R, Hokoishi K, Murase K, Mochizuki T, Miki H, Kikuchi T	Heterogeneity of Cerebral Blood Flow in Frontotemporal Lobar Degeneration and Alzheimer's Disease	European journal of nuclear medicine	31	162-168	2003

Ishii K, Mori T, <u>Hirono N</u> , Mori E	Glucose metabolic dysfunction in subjects with a Clinical Dementia Rating of 0.5	J Neurol Sci	215	71-74	2003
Kazui H, Hashimoto M, <u>Hirono N</u> , Mori E	Nature of personal semantic memory: evidence from Alzheimer's disease	Neuropsychologia	41	981-988	2003
Kazui H, Mori E, Hashimoto M, <u>Hirono N</u>	Enhancement of declarative memory by emotional arousal and visual memory function in Alzheimer's disease	J Neuropsychiatry Clin Neurosci	15	221-226	2003
<u>Hirono N</u> , Hashimoto M, Yasuda M, Kazui H, Mori E	Accelerated memory decline in Alzheimer's disease with apolipoprotein e4 allele	J Neuropsychiatry Clin Neurosci	15	354-358	2003
Nishio Y, Nakano Y, Matsumoto K, Hashimoto M, Kazui H, <u>Hirono N</u> , Ishii K, Mori E	Striatal infarcts mimicking frontotemporal dementia: a case report.	Eur J Neurol	10	457-60	2003
<u>Arai Y</u> , Ueda T	Paradox revisited: still no direct connection between hours of care and caregiver burden.	Int J Geriatr Psychiatry	18(2)	188-189	2003
<u>Arai Y</u> , Zarit SH, Kumamoto K, Takeda A	Are there inequities in the assessment of dementia under Japan's LTC insurance system?	Int J Geriatr Psychiatry	18	346-352	2003
Washio M, Inoue H, Kiyohara C, Matsumoto K, Koto H, Nakanishi Y, <u>Arai Y</u> , Mori M	Depression among caregivers of patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Int Med J	10(4)	255-259	2003
Washio M, Oura A, <u>Arai Y</u> , Mori M	Depression among caregivers of the frail elderly: Three years after the introduction of the Public Long-Term Care insurance for the elderly.	Int Med J	10(3)	179-183	2003
<u>Ikeda M</u> , Fukuhara R, Shigenobu K, Hokoishi K, Maki N, Nebu A, Komori K, Tanabe H	Dementia-associated mental and behavioral disturbances in community dwelling elderly: findings from the 1st Nakayama study	J Neurol Neurosurg Psychiatry	75	146-148	2004
<u>Ikeda M</u> , Shigenobu K, Fukuhara R, Hokoishi K, Maki N, Nebu A, Komori K, Tanabe H	Efficacy of fluvoxamine as a treatment for behavioral symptoms in FTLN patients	Dement Geriatr Cogn Disord	17	117-121	2004
<u>Ikeda M</u> , Ishikawa T, Tanabe H	Epidemiology of Frontotemporal lobar degeneration (FTLD)	Dement Geriatr Cogn Disord		(in press)	2004

Arai Y, Kumamoto K, Washio M, Ueda T, Miura H, Kudo K	Factors related to feelings of burden among caregivers looking after impaired elderly in Japan under the Long-Term Care Insurance system.	Psychiatry Clin Neurosci	58(4)	(in press)	2004
Arai Y, Kumamoto K, Washio M	Assessment of family caregiver burden in the context of the LTC insurance system: J-ZBI.	Geriatrics & Gerontology Internatioanal		(in press)	2004

IV. 研究成果の刊行物・別刷

〈研究成果1〉

ia 卷頭言 *Journal of Geriatric Psychiatry*

痴呆性高齢者と自動車運転

池田 学 愛媛大学神経精神医学教室

痴呆性高齢者の運転については、昨年の本誌巻頭言で深津亮先生が論じておられる¹⁾が、あえてもう一度とりあげてみたい。愛媛県のような中山間地域（ほとんどが過疎地）を多く抱えるところで精神医療に携わっていると、この問題は本当に深刻なのである。たとえば、いったん運転の中断が実現すると、今度はその高齢者の通院はおろか買い物などの日常生活すらままならなくなる場合もある。しかし、これまでわが国の老年精神医学の分野でこの問題が注目されることはあまりなかったようである。系統的な研究に取り組んでいるのは、同じ四国の共同研究者でもある上村直人先生のグループ（高知医科大学）²⁾のみである。お二人の問題意識は、深津先生が北海道で、上村先生が高知県で長年にわたって臨床研究を展開されてきたことと無関係ではないと思われる。この問題に関しては、老年精神科医の間でも、東京や大阪などの大都市圏で診療に当たっている者と、われわれのような自動車に頼らざるをえない地域で活動している者との間に温度差が感じられる。そもそも、大都市圏に住む高齢者は運転免許を所有していても、実際に自動車を運転している人は少数であろう。かりに運転を続けていたとしても、代替移動手段が豊富なため、身体的機能や認知機能の低下が明らかになれば、運転の中断も比較的容易であろう。

平成14年6月から改正道路交通法の施行により、痴呆性疾患が運転免許取り消し要件として明確化された。けれども、これまで痴呆性高齢者の運転能力評価や運転中断の方法について、医学的検討を加えた研究はわが国では見受けられない。臨床場面では痴呆患者の運転中止を強くすすめているが、多数の痴呆性高齢者が正確な診断を受けなまま運転を継続していたり、痴呆のため運転を中断したにもかかわらず再びそのことを忘れて運転したり、家族が運転中断を強要することにより痴呆性高齢者と介護者との関係が悪化し家族の介護負担がかえって増えてしまう、高齢の介護者自身が痴呆性高齢者の運転に生活基盤を依存している、といった問題も生じている。

20030192

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。